



## 【事例 4】 香取市 : 大戸地域資源保全会

### 1. 組織の概要

協定締結年度	協定面積(ha)	構成員	集落数
平成19年度	68.9ha (田:65.5ha、畑:3.4ha)	農業者64名、 3団体、3個人	1

### 2. 地区の概要

大戸地区は典型的な谷津田地形であり、山からの湧水と、かんがい期に利根川から汲み上げた両総用水の水を、ため池(地口池)に貯留したものが主な水源となっています。地域に先駆けて農薬の



オオタカの水浴び



ホンドギツネ

空中散布を中止し、環境保全型農業にも取り組んでいます。

また、ホンドギツネやオオタカなど絶滅が危惧される生物が生息する自然環境にも恵まれた地域です。

(ホンドギツネ:平成18年 鈴木 正慶氏撮影)

### 3. 合意形成の経緯と組織の運営(経緯と運営の工夫等)

農家・一般市民が集まり、対策に取り組むかどうか集落全体で検討を行ったところ、特に反対はありませんでした。しかし、対策期間中に役員が変わることは、活動に対する一貫性が保てないということで、役員は5年間継続としました。役員の皆さんは、使命感を持って活動をリードしています。



集落の様子



役員会の様子

### 4. 特徴的な活動について



皆でEM団子作り



発酵の進んだEM団子

#### (1) 地口池の浄化活動

地口池は集落の水源ともなっています。しかし、マコモ等が生い茂り、水質も悪化していたため、刈り払い等の整備を行うとともに、EM菌を利用した水質浄化に取り組んでいます。

## EM 団子の投入



その結果として、水の透明度は上がってきており、今後も EM 菌の利用を続けて、水質浄化に努めていくこととしました。

### (2) 生きもの調査について

地域の豊かな自然に目を向けてもらい、環境保全に対する意識を育てるため、毎年、小学生を対象とした生きもの調査を実施しています。

用水路に生息する魚や昆虫などを子どもたちに採取させて、自然保護観察指導員や両総農業水利事業所職員の指導を受けながら種類ごとに記録しています。



指導員が種類を調べています

活動組織の意向に賛同した子どもたちの母親も積極的に手伝いに参加し、毎年恒例のイベントとして地域に定着しつつあります。



生きもの調査の様子



採取した生きものを皆で観察

### (3) 共同活動を行うようになって、集落が変わったこと

元々まとまりの良い集落で、共同活動には100%近い構成員が参加しています。また、集落における話合いの回数は格段に増え、集落営農などの話も出始めるようになり、地域の将来を考える機運が生まれ始めています。

## 5. 今後の活動について

農業の担い手については、厳しい状況があるものの、この対策を契機として集落の将来のあり方について考え始めているところです。まだ、先のことは模索している段階ですが、地域内の子どもたちと一緒にやる生きもの調査を通じて、集落内の環境保全に対する意識が高まりつつあるとともに、一般市民との交流が活発化しており、今後は地域の環境保全を主なテーマとして、集落が一体となって活動していくことは可能であると考えています。

このような地道な活動を通じ、農業が持っている環境保全などの多面的機能について、一般市民への理解を深めてもらい、共同活動に対しても協力を求めていくことが、今後の集落の維持・発展につながっていくものと思います。

また、集落間における連携の強化も図り、お互いに共存・共栄できる雰囲気づくりに努め、この対策の趣旨でもある農村の振興につなげることを考えており、今後の活動が期待されています。

